

<シェリル・メイナー大佐の2021年1月17日のビデオメッセージ>

今から56年前、私は小隊の恵の座（説教壇の前に備え付けられた祈りの場所）でお祈りをしました。その日のことを昨日のようにはっきり思い出すことができます。まだ幼かった私は、恵みの座にひざまずき、自分にイエス様の愛が必要だということを認め、イエス様を救い主として信じる祈りをささげました。祈り終えて立ち上がった時、神の愛が心に満ち、私は違う者になっていました。恵みの座は私にとって神を礼拝する祭壇となったのです。創世記8章から9章には、大洪水が終わって箱舟から出たノアが、祭壇を築いて神を礼拝したことが記されています。神様は二度と洪水で地を滅ぼすことをしないという約束のしるしとして、祭壇の上の空に虹を置いてくださいました。ノアは祭壇を築くことによって、自分と家族を洪水から守ってくださった神を礼拝しました。また、洪水によって滅ぼされた人々と同じ罪が自分の中にもあることを認めて、祭壇の上で犠牲の動物をささげ、罪を告白し、罪の赦しを求めました。また、洪水後の新しい世界で家族と共に生きて行くために必要な助けを求めて、祭壇で嘆願の祈りをささげました。私たちも自分の祭壇を築いて、神様への礼拝をささげましょう。祭壇で祈る時、人々はキリストと出会い、救われ、罪が告白され、人々は一変され、感謝の祈りがささげられます。祭壇はまた、多くの人々が救われるようにと、熱心なとりなしの祈りがささげられる場所です。あなたが弱さをおぼえるとき、祭壇にひざまずいて、力を得てください。あなたに感謝すべきことがあるとき、祭壇にひざまずいて、感謝の祈りをささげてください。祭壇は、神と私たちとが結ばれ、神の火によって私たちが練り清められる場所です。小隊に備え付けられた恵の座だけが祭壇ではありません。今あなたがいる場所で、あなたが心を神に向けて祈るなら、あなたがいる場所が祭壇となるのです。それぞれが自分の祭壇に進み出て祈る時、私たちは霊においてひとつとなります。どうか、祭壇にひざまずいて祈るあなたに、神の清い霊が臨んでくださり、あなたの心を燃やしてくださいますように。